



新しき

地球社会の創造へ

平和の文化と国連を語る

アンワルル・K・チョウドリ

Anwarul K. Chowdhury 元国連事務次長

池田大作

Daisaku Ikeda 創価学会名誉会長



新しき 地球社会の創造へ

平和の文化と国連を語る

アンワルル・K・チョウドリ

Anwarul K. Chowdhury 元国連事務次長

池田大作

Daisaku Ikeda 創価学会名誉会長

新しき地球社会の創造へ 平和の文化と国連を語る

2011年9月8日 初版発行
2011年10月12日 2刷発行

著者 アンワル・K・チヨウドリ

池田大作

発行者 南晋三

発行者 株式会社 潮出版社

〒102-8110 東京都千代田区飯田橋3-1-3

電話／03-3233-0078(編集)

03-3233-0074(営業)

振替口座／00150561090

印刷・製本

大日本印刷株式会社

©Anwarul K. Chowdhury, Daisaku Ikeda, 2011.

Printed in Japan

ISBN978-4-267-01877-0 C0095

落丁・乱丁本は小社営業部宛にお送りください。

送料は小社負担でお取り替えいたします。

本書の内容の一部あるいは全部を無断で複写複製(コピー)する

ことは、法律で認められた場合を除き、

著者および出版社の権利の侵害となりますので、

その場合はあらかじめ小社に許諾を求めてください。

<http://www.usio.co.jp/>

目次

第一章

豊かな自然と人間の大地「黄金のベンガル」

9

第二章

母国独立へ——不屈の闘争

39

第三章

精神の巨人タゴール

69

第四章

「全人教育」と人間のための宗教

103

第五章

「平和の文化」を人類の規範に

135

第六章

子どもの権利を守る世界を

169

第七章

地球民族の要としての国連

205

第八章

人類の議會を支える基盤

233

第九章

「弱者の側に立つ国連」の使命

261

第十章

民衆の幸福のための人間開発

289

第十一章

女性こそ平和創造の主役！

319

第十二章

家庭は希望の未来を築く土台

351

第十三章

時代を変革しゆく青年の力

371

第十四章

世界市民の揺るぎない連帯を

399

アンワル・K・チョウドリ

Anwarul K. Chowdhury 元国連事務次長

「平和の文化」には、青年の個々の

自己変革を促す力があります。

あらゆる教育機関でカリキュラムの一環として

「平和の文化」を学ぶことを取り入れ、

読み書きと同じように、

教育の根幹とするべきではないでしょうか。

池田大作

Daisaku Ikeda 創価学会インタナショナル（SGI）会長

女性の声と力なくして、

時代を変革しゆく「平和の文化」を
創造することはできません。

「新しい地球社会」を創造しゆく主役――
それは青年であり、そして女性です。

目次

第一章

豊かな自然と人間の大地「黄金のベンガル」

9

第二章

母国独立へ——不屈の闘争

39

第三章

精神の巨人タゴール

69

第四章

「全人教育」と人間のための宗教

103

第五章

「平和の文化」を人類の規範に

135

第六章

子どもの権利を守る世界を

169

第七章

地球民族の要としての国連

205

第八章

人類の議會を支える基盤

233

第九章

「弱者の側に立つ国連」の使命

261

第十章

民衆の幸福のための人間開発

289

第十一章

女性こそ平和創造の主役！

319

第十二章

家庭は希望の未来を築く土台

351

第十三章

時代を変革しゆく青年の力

371

第十四章

世界市民の揺るぎない連帯を

399

装丁／木村裕治

金田一 亜弥（木村デザイン事務所）

カバー写真（国連ビル）

撮影／池田大作（創価学会インタナショナル会長）

カバー対談写真・巻頭口絵写真提供

聖教新聞社

新しき地球社会の創造へ——平和の文化と国連を語る

・引用文中に付したルビ、および改行は編集部による。
・編集部による注は各章末のほか、（ ）内に記した。
・著者の加筆・修正のなかで、対談連載後の出来事に関する箇所は、編集部が「追記」と記した。

第一章

豊かな自然と人間の大地「黄金のベンガル」

平和提言を一貫して発信

池田 チョウドリ博士は、長年にわたり、国連を舞台に、偉大なる「平和と人道の指導者」として、また「慈悲と勇気の外交官」として、「平和の文化」の創造のために行動してこられました。

世界の平和を願い、民衆の幸福のために、崇高な生涯を歩んでこられた博士と対談を始めることができ、心から光栄に思っております。

博士と初めて語り合ったのは、二〇〇三年三月十九日、創価大学と創価女子短期大学の卒業式の折でした。あのイラク戦争の開戦直前のことです。その後、十分に懇談する機会がなく、心残りに思っていました。

その意味でも、今回、こうして対談できることを本当に嬉しく思っています。

チヨウドリ あ卒業式に出席させていただいたことは、私にとって素晴らしい思い出となりました。私と妻から、池田SGI（創価学会インタナショナル）会長ご夫妻に、あらためて感謝申し上げます。私どもは、会長との心躍る出会いを、今なお大切にしております。

率直で飾らない対話を通して、池田会長が、なぜこれほど多くの世界中の人々に慕われ、尊敬されるのか、そして、なぜこれほどまで平和と人類の幸福のために、人生を捧げてこられたのかを理解することができ、非常に大きな意味をもつ体験となりました。

会長は非常に明快で、簡潔かつ率直な言葉で語られます。互いに一瞬にして打ち解け、それぞれの生い立ちや、人生のさまざまな局面での体験を語り合いましたね。

これまでの交流や語らいの機会を通して、会長の人間としての内面の深さから、多くのことを学ばせていただいております。

池田 恐縮です。チヨウドリ博士からは、これまで何度も国連にご招待いただきました。二〇〇六年八月の再会の折にも、重ねての強い要請をいただきました。光栄の限りです。

私がニューヨークの国連本部を初めて視察に訪れたのは、一九六〇年の十月のことでした。この半世紀、歴代の事務総長をはじめ、国連の首脳の方々とも、深く交友を結んできました。私どもSGIは、世界平和と人類の幸福に果たす国連の役割に鑑み、一貫して

「国連中心主義」で進んでまいりました。

チヨウドリ 平和の人々として、長年にわたって国連を支持してこられた池田会長から、世界の人々は多くのことを学ぶことができます。

ゆえに私は、ぜひとも国連においていただきたいと、ずっと申し上げてきたのです。

五十年近く前、会長は国連を初訪問されましたが、今や会長のメッセージの重要性は、当時の比ではありません。

実際、一九八三年から毎年、一月二十六日に寄せて、平和提言（「SGIの日」*3）きねんをを発表し、国連と国際協力の重要性和妥当性を強調してこられました。

このような活動を一貫して、しかもこれほどの長きにわたり、実質的な形で持続してこられた方を、私は世界で他に知りません。会長の平和提言は、豊かな思考と発想に溢れ、貴重な示唆に富むものです。

この一事をもつてしても、会長を国連の加盟国や事務局や市民社会団体、そして報道関係の代表が集う歓迎の場にお迎えして然るべきだと思ふのです。そうすることによって参加者は、世界中の幾百万もの人々を啓発してこられた会長の平和と人間開発のメッセージの真髓に、じかに触れ、学ぶことができるのです。

池田 あまりにも寛大なお言葉です。深く理解してくださる真実の友人がいることに勝る